

# 宮城県ブルーカーボン協議会設立総会兼第1回協議会

日時：令和4年1月20日（木）午後1時から

場所：宮城県水産技術総合センター/WEB 併用

## 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 宮城県ブルーカーボン協議会の設立について

4 議 案

第1号議案 宮城県ブルーカーボン協議会規約（案）について

第2号議案 役員を選任について

第3号議案 令和3年度事業計画（案）について

5 その他

6 閉 会

## 宮城県ブルーカーボン協議会設立総会兼第1回協議会 出席者名簿

日時：令和4年1月20日（木） 午後1時から

場所：宮城県水産技術総合センター大会議室/WEB 併用

※敬称略

	所 属	役 職	氏 名	備 考
構成員	神戸大学 産官学連携本部 社会実装デザイン部門	客員教授	信時 正人	WEB
	(国研) 水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター	沿岸生態系暖流域 グループ長	堀 正和	WEB
	(国研) 水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門	亜寒帯浅海域 グループ長	村岡 大祐	WEB
	宮城県漁業協同組合	常務理事	渡辺 裕季	
	宮城県漁業協同組合 石巻地区支所	支所長	小野寺 賢	
	宮城県漁業協同組合 網地島支所	前支所長	阿部 敏和	
	一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	事務局長	長谷川 琢也	
	さかなデザイン	代 表	安達 日向子	
	石巻市産業部	次長（水産担当）	河野 大輔	
	宮城県水産林政部	副部長（技術担当）	石田 幸司	

所 属	役 職	氏 名	備 考
宮城県漁業協同組合	次長代理	土方 規生	
	課 長	熊谷 将士	
さかなデザイン	クリエイティブ ライター	香川 幹	
石巻市産業部水産課	主 査	相澤 英昭	
株式会社クオラス	アカウント マネージャー	小野 美穂	WEB
bmpd	クリエイティブ デザイナー	木村 麻理	WEB

宮城県水産林政部水産林業政策室	技術主査	大野澤 真人	WEB
宮城県水産林政部水産業振興課	技術主査	前川 文人	WEB
宮城県水産林政部森林整備課	技術主幹	橋爪 有子	WEB
	主 事	伊藤 詩音	WEB
宮城県環境生活部環境政策課	技術補佐	堀籠 洋一	WEB
宮城県水産技術総合センター 気仙沼水産試験場	技術主幹	伊藤 貴範	WEB
宮城県経済商工観光部 気仙沼地方振興事務所水産漁港部	技 師	村上 真夏	
宮城県経済商工観光部 東部地方振興事務所水産漁港部	技 師	上遠野 拓也	
宮城県経済商工観光部 仙台地方振興事務所水産漁港部	技 師	武田 慶士	WEB
(事務局) 宮城県水産林政部 水産業基盤整備課	課 長	佐藤 崇	
	技術副参事兼 総括課長補佐	小野寺 毅	
	技術補佐	小野寺 恵一	
	技術主任主査	渡邊 一仁	
	技術主査	鈴木 隆史	
	技 師	田中 陸	

## 宮城県ブルーカーボン協議会の設立について

水産業基盤整備課

本県はこれまで「水産物の安定供給」という水産業の本来的機能としての役割を果たすべく、「品質」や「コスト」の満足を満たすことを念頭に、各種の事業を展開してきた。一方、持続可能性を目指しているSDGsやパリ協定にみる地球温暖化対策など、社会情勢の変化の中では「環境対応」がキーワードとして加わり、**新たな価値として標準化**されつつある。身近なところでは、環境対応できていない製品は取引しなという動きも見られはじめている。このことは、水産業の持続可能性、また、水産業の生き残り戦略として「環境対応」が必要不可欠となってきたことを意味する。

このような背景のもと、ブルーカーボン事業は次の一手として打ち出されたものである。水産業が持つ多面的機能の1つとして、**藻場や海藻が地球温暖化の主要因である二酸化炭素を吸収・隔離した後に貯留する量をブルーカーボンとして定量的に評価していくことが求められている**。また、二酸化炭素の発生抑制の観点からは、**漁業活動に伴う二酸化炭素排出量を要因とともに明らかにしていくことも重要**である。さらに、水産業の二酸化炭素情報を明らかにすることは、政策・施策の中で社会実装を進めることにより、**環境配慮型水産業として、本県水産業の持続可能性を強力に打ち出す根拠となる**。

これらの取組は、宮城県が水産基本計画第Ⅲ期（令和2年度策定）で掲げた「**環境と調和した持続可能で活力ある水産業の確立**」を実現する上でも不可欠で、本協議会設立の意義がここにある。

2015年

**「持続可能な開発のための2030アジェンダ」**採択

※複数の課題の統合的な解決を目指す**SDGs**を含む

**「パリ協定」**採択



＜宮城県＞  
水産業の振興に関する  
基本的な計画(第Ⅲ期)

＜農水省＞  
みどりの食料  
システム戦略



**環境と調和した持続可能で活力ある水産業の確立**



# 水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）を策定しました

※計画期間：令和3年度～令和12年度

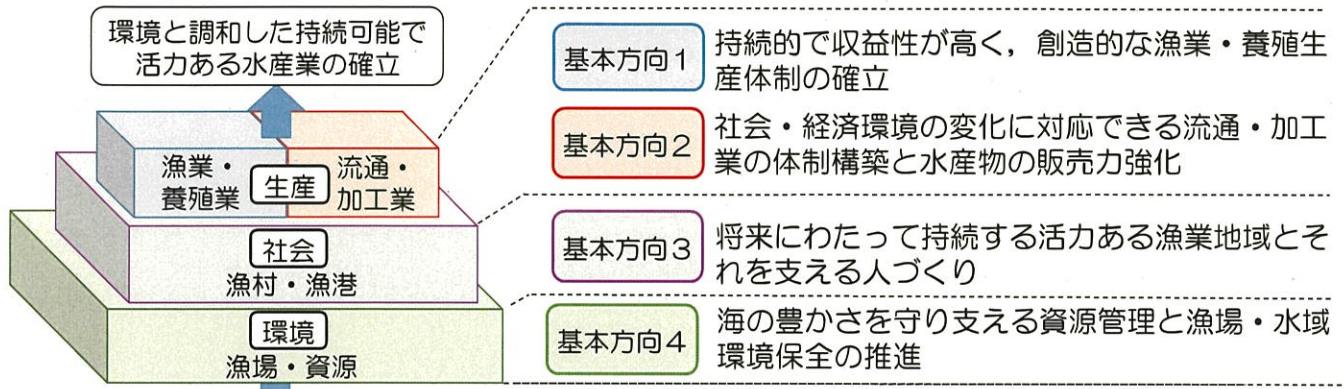


## 目指すべき宮城の水産業の姿

宮城県の水産業は、おおむね震災前の水準まで産業規模が回復しましたが、海洋環境の変化による水場の変動や、人口減少に伴い国内市場が縮小するなど、自然環境や経営環境が大きく変化しています。

第Ⅲ期基本計画では、宮城県にとって望ましい水産業の成長産業化とは、新しい技術・価値観などの導入を進め、イノベーションを創出することで、経営環境の変化に柔軟に対応しながら自然環境と調和した持続的産業として発展し、地域の活性化が図られることと捉え、“環境と調和した持続可能で活力ある水産業の確立”を目指します。

## 目指すべき姿の実現に向けた4つの基本方向



## 具体的に取り組むこと（14の施策）

本県水産業の目指すべき姿の実現に向け14の施策を展開します。

基本方向1 関連施策（関連分野：漁業・養殖業）		基本方向2 関連施策（関連分野：流通・加工業）	
施策1	操業コストの削減と労働環境の改善 ※主に沿岸・沖合漁業	施策4	水産加工業者等の経営安定化
施策2	資源の有効活用など収益性の高い漁業への転換 ※主に沿岸漁船漁業	施策5	国内・海外への積極的な販路の開拓
施策3	収益性が高く環境負荷の少ない養殖生産への転換 ※養殖業	施策6	地域で稼ぐ力の強化
		施策7	水産都市の活力強化
基本方向3 関連施策（関連分野：漁村・漁港）			
地域づくり	施策8	防災機能の強化と新たな視点での漁港等の利活用	
	施策9	自然環境や地域資源を活かした漁村地域の活性化	
人づくり	施策10	新規就業者・担い手の確保・育成、地域をけん引するリーダーの育成、地域における女性の活躍	
	施策11	持続可能な強い経営体への移行と経営の高度化	
基本方向4 関連施策（関連分野：漁場・資源）			
施策12	生産力の高い漁場の整備や水域環境の保全		
施策13	先端技術等を活用した資源管理の高度化と資源の造成		
施策14	ブルーカーボンによるCO <sub>2</sub> 吸収や海洋プラスチックごみ対策等、海洋環境の保全に寄与する取組の推進		



## 特に力を入れること（重点プロジェクト）

特に力を入れて取り組むべき項目を重点プロジェクトに位置付け、多様な主体と連携して取り組みます。

### スマート水産業推進プロジェクト

生産性や収益性の向上に向け、ICT等先端技術を水産業の現場に実装し、生産性向上を目指します。



### 水産物輸出促進プロジェクト

需要が拡大している海外市場に向け、地域一体となった輸出体制の確立を目指します。



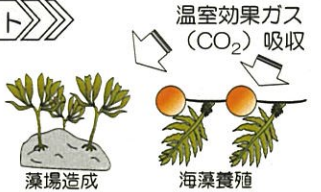
### 新しい漁村地域創出プロジェクト

将来にわたって持続する活力ある漁村地域の創出に向け、関係者が連携して積極的な取組を展開します。



### ブルーカーボン推進プロジェクト

藻場造成や海藻養殖等を通じた環境の保全の推進により、持続可能な水産業を目指します。



### 試験研究推進プロジェクト

水産業を取り巻く情勢変化への対応とイノベーションの創出に向け、国、大学等の研究機関や民間企業等がそれぞれの役割を最大限に発揮できるように連携を深めながら試験研究を推進し、水産業の各分野で技術開発・現場への導入を展開します。



## 目標指標

生産、流通・加工業、消費及び環境・漁港（防災）分野において計画の進捗を測る目標指標を設定しました。

【生産】	現状	目標
●漁業産出額	775億円	820億円
●漁業所得及び新規就業者数		
沿岸漁船漁業	349万円	578万円
	年間13人	年間19人
養殖業	280万円	534万円
	年間20人	年間24人

【流通・加工】	現状	目標
●水産加工品出荷額	2,327億円	2,455億円
●水産加工業付加価値額	671億円	771億円



【総合】	現状	目標
●主要5漁港の水揚量・額		
水揚量	243,248 t	338,006 t
水揚額	563億円	619億円

【環境・漁港（防災）】	現状	目標
●産業と環境の調和に貢献する海藻養殖の増産・藻場の造成及びCO <sub>2</sub> 削減効果		
海藻養殖増産		
ワカメ	→	+3,175 t
コンブ	→	+227 t
藻場造成	→	+903 ha
CO <sub>2</sub> 削減効果	→	年間2,489 t
●漁港施設の長寿命化対策（長寿命化対策を実施した施設の割合）	0%	100%

【消費】	現状	目標
●世帯1人当たりの年間魚介類等の購入額	3万1千円	3万3千円

※令和12年の目標値。ただし、漁港施設の長寿命化対策は令和8年の目標値。  
※集計期間は原則1月から12月ですが、一部の指標については、年度又は漁期を集計期間としています。

## 計画の推進に御理解・御協力をお願いします

「水産業の振興に関する基本的な計画」は、本県水産業の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る目的で策定するものです。

令和3年度を始期とする第Ⅲ期計画は、東日本大震災からの復旧・復興の完結を目的とした第Ⅱ期計画の進捗を踏まえ、新たに取り組むべき課題や近年の本県水産業を巡る情勢変化に対応できる本県水産業の新たな総合計画としました。

計画の推進に御理解・御協力をお願いします。

～持続可能な水産業を目指すために～ SDGsの達成にも貢献する計画としています。

SDGsとは、全世界の共通課題である不平等や格差、気候変動などの課題を2030年末までに解決し、持続可能な社会を実現するために、国連が定めた17の目標です。

本計画には、SDGsでうたわれた「海の豊かさを守ろう」の達成などに向け、本県水産業が貢献し得る施策を計画に盛り込んでいます。



## より詳しく

より詳しい水産基本計画の内容は宮城県水産林政部水産業振興課のホームページに掲載しています。  
URL <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suishin/ground-plan.html>



# 令和3年度持続可能なみやぎの漁場環境づくり推進事業

【目的】宮城県沿岸域における藻場の造成・保全や海藻養殖の増産に向けた取組を推進する中で、水産業が持つ多面的機能としての**二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)固定・吸収量をブルーカーボンとして評価**する。また、**本県水産業から発生する環境負荷を定量し、削減貢献量を明らかに**することで、環境配慮型水産業への機運を醸成し、本県水産業のカーボンニュートラリティや持続可能性に寄与することを本事業の目的とする。



海藻のCO<sub>2</sub>固定量を算定

## (仮)宮城県ブルーカーボン協議会

構成員：行政、専門家、市町、広報、業界等  
役割：方向性の検討、進捗管理、結果の検証



藻場の造成、磯焼け対策、ウニ駆除・有効利用

4



漁業活動や漁獲物の消費に伴うCO<sub>2</sub>は!?



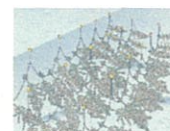
### 3つの柱

技術開発  
試験研究



アマモ場

モデル地区  
での実践



ワカメ養殖

普及指導  
広報



普及・広報活動

- ・CO<sub>2</sub>固定・排出原単位(インベントリ)の収集整理、作成
- ・藻場面積の把握(海藻種ごと)
- ・漁業種類、魚種等のCO<sub>2</sub>算定

- ・モデル地区を設定し、藻場造成や海藻養殖に伴う事業生産性と環境影響を検討

- ・普及啓発活動(一般広報、ブルーカーボン教育、水族館とのコラボ企画等)
- ・アプリ開発

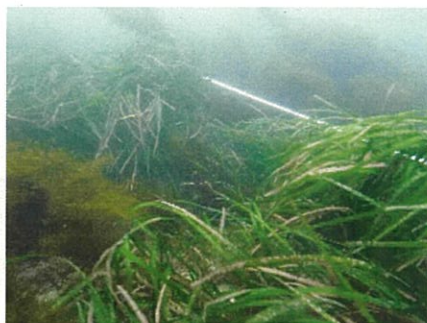


## ■本県でみられる藻場の種類

海域・水深・底質によって異なる様々な種類の藻場があります。

### アマモ場

波の静かな内湾沿岸の砂泥底に繁茂するアマモなどから構成される藻場です。アマモは海草の一種で陸上の植物と同様に種子で繁殖します。



### ガラモ場

多様な褐藻類のホンダワラ属から構成される岩礁性の藻場です。卵形の気泡をまとうことで海中で立ち上がり、魚類のたまり場、成育場となっています。



### アラメ場

黒潮の影響を受ける沿岸域に発達するアラメ属の海藻類から構成される藻場です。岩礁に着床して繁茂し、アワビやウニなどの餌植物になります。



### コンブ場

親潮の影響を受ける北方域のコンブ類等から構成される藻場です。岩礁に着床して繁茂し、アワビやウニなどの餌植物になります。





## Yahoo! JAPAN、「カーボンニュートラル」をテーマにした 企業版ふるさと納税の寄付先を国内初公募

### ～ 地方公共団体への支援を通じて、国内の脱炭素化などを促進

ヤフー株式会社（以下、Yahoo! JAPAN）は本日、企業版ふるさと納税（※1）の寄付先となる地方公共団体を公募する取り組み「Yahoo! JAPAN 地域カーボンニュートラル促進プロジェクト（以下、本プロジェクト）」を発表しました。「カーボンニュートラル」をテーマにした企業版ふるさと納税の公募は、国内で初めての試みです。（※2）

本プロジェクトでは、地域の脱炭素化などの促進を目的に、地方公共団体が行うカーボンニュートラルに向けた地方創生の取り組みを広く募集し、それに対してYahoo! JAPANが寄付を通じた支援を行います。なお、公募要件の詳細は後日Yahoo! JAPANコーポレートサイト上（※3）で発表し、2021年4月から同サイト上で公募を開始する予定です。

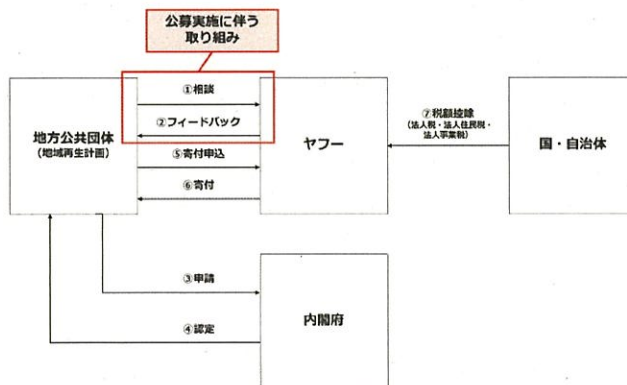
企業版ふるさと納税は、地域再生計画の内閣府認定を受けた地方公共団体が行う地方創生の取り組み「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」に対して企業が寄付をすると、法人関係税が税額控除される制度です。本制度は2016年より開始され、対象となる地方公共団体の数は46道府県899市町村（令和2年度第3回認定後）にのぼります。

地球温暖化対策の取り組みを促進する「地球温暖化対策推進法」（※4）により、現在、自治体においては地球温暖化対策の実行計画の作成が義務づけられています。例えば、東京都では再生可能エネルギーによる電力利用割合を2030年までに30%を目指すことを目標に掲げる（※5）など、自ら計画の立案や目標設定を行う自治体が増えています。

Yahoo! JAPANは、持続可能な社会の実現に向けて、従来より地球温暖化対策を目的とした気候変動問題への取り組みを推進するとともに、「2023年度 100%再エネチャレンジ」（※6）を宣言するなど、環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。Yahoo! JAPANは、今後も国内のカーボンニュートラルに向けた取り組みを促進していきます。

#### 【「Yahoo! JAPAN 再エネ応援プロジェクト」概要】

公募条件の詳細は後日、Yahoo! JAPANコーポレートサイト上で発表します。



#### ■ 公募要件（予定）

本事業の対象となる申請者は次の要件を満たす地方公共団体とする。

## 第1号議案

### 宮城県ブルーカーボン協議会規約（案）

#### （設置）

第1 本県のブルーカーボンの取組を推進するため、宮城県ブルーカーボン協議会（以下、協議会とする。）を設置する。

#### （目的）

第2 宮城県沿岸域における藻場の造成・保全や海藻養殖の増産に向けた取組を推進し、二酸化炭素の固定・吸収量をブルーカーボンとして評価するとともに、漁業・養殖業から発生する環境負荷を定量し、削減貢献量を明らかにすることで、環境配慮型水産業への機運を醸成し、本県水産業のカーボンニュートリティや持続可能性に寄与することを目的とする。

#### （所掌事務）

第3 協議会は、次の各号に掲げる事項を検討する。

- (1) 技術開発・試験研究に関すること
- (2) モデル地区での実践に関すること
- (3) 普及・指導・広報に関すること
- (4) その他、ブルーカーボン事業全般に関すること

#### （組織等）

第4 協議会は、次の者により組織する。なお、構成員は別表に掲げる者をもって充てるものとする。

- (1) 漁業関係者
- (2) 学識経験者
- (3) 行政関係者

2 構成員が出席できないときは、代理人をもって協議会に出席することができる。

#### （役員等の選任）

第5 協議会には、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名

2 第1項の役員は、構成員の中から互選する。

3 第1項の役員は相互に兼ねることができない。



## 第1号議案

### (役員の職務)

第6 会長は会務を総括する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

### (協議会)

第7 協議会は会長が招集し、会長が議長となる。

### (事務局)

第8 協議会の事務局は水産林政部水産業基盤整備課とする。

### 附 則

この規約は、令和4年1月20日から施行する。

第1号議案

別表

区 分	構 成 員
漁業関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宮城県漁業協同組合常務理事 渡辺 裕季 氏</li> <li>○宮城県漁業協同組合石巻地区支所支所長 小野寺 賢 氏</li> <li>○宮城県漁業協同組合網地島支所前支所長 阿部 敏和 氏</li> <li>○一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 長谷川 琢也 氏</li> </ul>
学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○神戸大学 産学官連携本部 社会実装デザイン部門 客員教授 信時 正人 氏</li> <li>○国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター 社会・生態系システム部 沿岸生態系暖流域グループ長 堀 正和 氏</li> <li>○国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部 亜寒帯浅海域グループ長 村岡 大祐 氏</li> <li>○さかなデザイン 代表 安達 日向子 氏</li> </ul>
行政関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宮城県水産林政部副部長（技術担当） 石田 幸司 氏</li> <li>○石巻市産業部次長（水産担当） 河野 大輔 氏</li> </ul>



構成員名簿

構成員	職・氏名		役職
神戸大学 産官学連携本部 社会実装デザイン部門	客員教授	信時 正人	
(国研) 水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター	沿岸生態系暖流域 グループ長	堀 正和	
(国研) 水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門	亜寒帯浅海域 グループ長	村岡 大祐	
宮城県漁業協同組合	常務理事	渡辺 裕季	
宮城県漁業協同組合 石巻地区支所	支所長	小野寺 賢	
宮城県漁業協同組合 網地島支所	前支所長	阿部 敏和	
一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	事務局長	長谷川 琢也	
さかなデザイン	代表	安達 日向子	
石巻市産業部	次長（水産担当）	河野 大輔	
宮城県水産林政部	副部長（技術担当）	石田 幸司	

## 宮城県ブルーカーボン事業計画（案）

### 第1 協議会の概要

#### 1 名称

宮城県ブルーカーボン協議会（令和4年1月20日設立）

協議会の詳細は、別添「宮城県ブルーカーボン協議会規約」のとおり。

#### 2 構成員

宮城県ブルーカーボン協議会（以下「協議会」という。）の構成員は、規約別表「宮城県ブルーカーボン協議会構成員名簿」のとおり。

### 第2 事業の目的

宮城県沿岸域における藻場の造成・保全や海藻増産に向けた取組を推進し、水産業が持つ多面的機能としての二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の固定・吸収量をブルーカーボンとして評価する。また、本県水産業から発生する環境負荷を定量し、削減貢献量を明らかにすることで、環境配慮型水産業への機運を醸成し、本県水産業のカーボンニュートラリティや持続可能性に寄与することを本事業の目的とする。

### 第3 事業の内容

#### 1 ブルーカーボン協議会の運営

業界、専門家、市町、行政等からなる構成員とともに、方向性の検討、進捗管理及び結果の検証などをおこなう。また、ブルーカーボン協議会を支える県機関で組織するブルーカーボンプロジェクトチームにおいて、データの収集や現場調整などを実施するもの。

年月日	項目	内容等	備考
令和3年11月12日	宮城県ブルーカーボンプロジェクトチーム第1回会議	・ブルーカーボン事業について ・その他	
令和4年1月20日	宮城県ブルーカーボン協議会設立総会兼第1回協議会	・規約（案）について ・役員の選任（案）について ・令和3年度事業計画（案）について	
令和4年2月予定	宮城県ブルーカーボンプロジェクトチーム第2回会議	・中間報告について ・現場データの収集について	
令和4年3月予定	第2回協議会	・令和3年度事業報告について ・令和4年度事業計画（案）について	

#### 2 技術開発・試験研究

インベントリデータ（CO<sub>2</sub>固定・排出源単位）の収集整理と作成、藻場面積の把握とブルーカーボン固定量の推定及び漁業種類・魚種等のCO<sub>2</sub>排出量算定をおこなうもの。

年月日	項目	内容等	備考
令和3年7月 ～令和4年3月	漁業・養殖業及び水産物の生産CO <sub>2</sub> 排出量算定	・県内漁業・養殖業の調査分析によるCO <sub>2</sub> 排出量の算定	



第3号議案

令和4年1月 ～令和4年3月	宮城県藻場面積の把握 (モニタリング)	・ブルーカーボン算定のための藻場面積の把握(モデル地区)	
令和3年7月 ～令和4年3月	CO <sub>2</sub> 固定・排出源単位の収集と整理	・文献調査や外部会議への参加によりCO <sub>2</sub> 固定・排出原単位のデータを収集する	
令和3年12月 ～令和4年3月	報告書・学術論文・国際誌等	・調査結果等の外部公表をする。	

3 モデル地区での実践

モデル地区を設定し、藻場造成や海藻養殖に伴う事業生産性と環境影響の評価をおこなうもの。

年月日	項目	内容等	備考
令和3年10月 ～令和4年3月	藻場造成の実践	・モデル地区を設定し、藻場造成・海藻養殖を実践するとともに、ライフサイクルを通じたCO <sub>2</sub> 固定・排出評価をおこなう。	
令和3年10月 ～令和4年3月	海藻養殖の実践		

4 普及指導広報

漁業者を対象にブルーカーボンの取組を普及・指導していくとともに、一般の方々を対象にも広報していき、水産分野の環境への対応を共有することで、持続可能な水産業への機運を高めていく。

年月日	項目	内容等	備考
令和4年1月20日	宮城県ブルーカーボンセミナー	・ブルーカーボンの基礎および社会実装に関するセミナーを開催する。	
令和4年3月23日	宮城県ブルーカーボンシンポジウム	・豊かな海づくり大会の理念を継承した本県ブルーカーボンの取組の普及啓発をおこなう。	

第4 予算配分

(単位：千円)

区分	事業に要する経費	備考
1 ブルーカーボン協議会の運営	800	
2 技術開発・試験研究	2,000	
3 モデル地区での実践	8,400	
4 普及指導広報	384	
計	11,584	

第3号議案

<令和3年度年間計画表>

日程		令和3年度									備考
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
協議会運営	宮城県ブルーカーボン協議会							第1回協議会(立ち上げ)		第2回協議会(年度末)	
	宮城県ブルーカーボンプロジェクトチーム				第1回検討会(立ち上げ)					第2回検討会(年度末)	
技術開発	漁業・養殖業及び水産物の生産CO <sub>2</sub> 排出量算定	県内漁業の調査・分析(統計・実地:定置漁業、あなご筒漁業、底曳網漁業、ギンザケ養殖業、ワカメ養殖業)									
	宮城県藻場面積の把握(モニタリング)					制度設計		モニタリング調査(委託:調整中)			
	CO <sub>2</sub> 固定・排出原単位の収集と整理				文献調査・外部会議等への参加						
	報告書・学術論文・国際誌							公表①		公表②	
モデル地区の実践	藻場造成の実践(石巻エリアを想定)	制度設計						藻場造成活動助成(補助金)			
	海藻養殖の実践	制度設計						新規海藻養殖活動助成(補助金)			
広報普及指導	現場説明・指導(漁業者)				随時(北部・中部・南部)						
	講演会・説明会(一般)					ブルーカーボンセミナー				ブルーカーボンシンポジウム	

第5 令和3年度事業目標 (KPI)

- ・令和3年度の藻場/海藻養殖によるCO<sub>2</sub>吸収量の算定
- ・インベントリデータ50件

第6 事業完了予定年月日

令和4年3月31日



# ブルーカーボン事業の進捗報告(参考)

## 1 海藻養殖・藻場造成

- 宮城県漁業協同組合石巻地区支所ではホソメコンブ、宮城県漁業協同組合網地島支所ではアラメを対象にモデル地区として採苗・育成試験を行っている。
- 養殖・造成に必要な条件を整理して技術化するとともに、ブルーカーボンとしての評価を進めていく予定。



ホソメコンブ

アラメ



アラメの母藻



子嚢班の形成確認



母藻の攪拌作業



攪拌作業後の海水



アラメの遊走子

〇〇

## 2 CO<sub>2</sub>インベントリデータの収集・作成

- 海藻種、魚種及び漁業ごとのインベントリデータを作成してCO<sub>2</sub>固定・排出原単位を整理していきます。  
(令和3年度50件を予定)



(算出方法及び算出結果の例)

CO<sub>2</sub>固定原単位: 生態系全体の純一次生産速度と残存率の積から算出

アマモ場4.9 (t-CO<sub>2</sub>/ha/年)

CO<sub>2</sub>排出原単位: ライフサイクルアセスメント法から算出

ヒラメ3.9 (t-CO<sub>2</sub>/t-products)

<収集・作成予定の主要なインベントリ>

(CO <sub>2</sub> 固定原単位)	(CO <sub>2</sub> 排出原単位)
アマモ場	イワシ類
アラメ場	サバ類
ガラモ場	マアジ
コンブ場	ヒラメ
ワカメ養殖	カツオ
コンブ養殖	クロマグロ



<参考>

## 今後のスケジュール(直近3年)

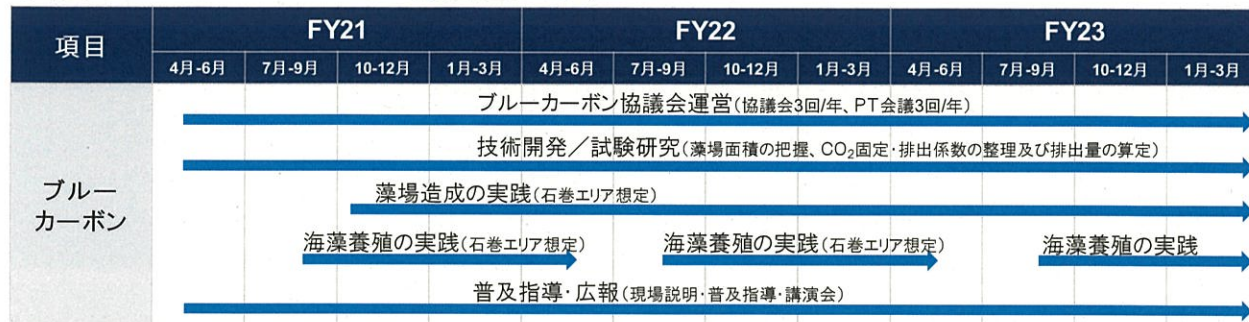


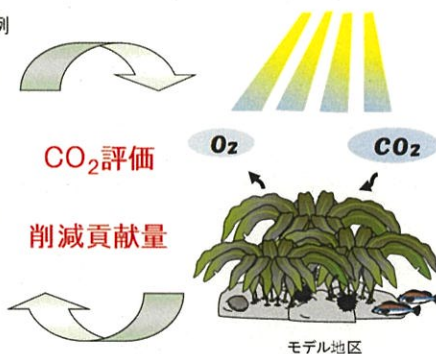
表 収集するCO<sub>2</sub>固定・排出原単位の例

固定	単位: t-CO <sub>2</sub> /FU
ワカメ (t)	0.010
コンブ (t)	0.042
アラメ場 (ha)	2.710

排出	単位: t-CO <sub>2</sub> /FU
イワシ類 (t)	0.1
サバ類 (t)	0.3
ホタテガイ (t)	0.2

※FU: Functional Unit 機能単位  
 ※CO<sub>2</sub>固定・排出原単位は現場データとLCA(ライフサイクルアセスメント)法から作成し、学術論文や国際誌への公表で科学的基礎を担保



### 【政策的示唆の検討】

- (普及・指導・広報)
- ・ブルーカーボンシンポジウム
  - ・現場説明、指導と普及
  - ・水族館との連携による展開 など
- (公的政策・施策の展開)
- ・戦略企画(カーボンフットプリント)
  - ・デジタルマーケティング
  - ・カーボンオフセット制度 など

ベストプラクティス!

→ 横展開へ 😊

**【期待される成果】 ☆本事業により10年間で2,500 tのCO<sub>2</sub> (年平均250t-CO<sub>2</sub>) を固定**

1. ブルーカーボンによるCO<sub>2</sub>固定効果や漁業・養殖業及び水産物によるCO<sub>2</sub>排出量を「見える化」できるようになる (評価手法及びCO<sub>2</sub>基準の策定)
2. 業態改善及び新技術導入によるCO<sub>2</sub>削減・固定効果の定量化が可能となる (削減貢献量の把握)
3. 「環境配慮」を新たな価値とする水産振興の基礎に活用できる (政策的示唆の検討)

# 宮城県ブルーカーボン協議会設立総会兼第1回協議会 議事録

1. 開催日時 令和4年1月20日(木) 13時00分から14時00分まで
2. 開催場所 石巻市渡波字袖ノ浜 97-6 宮城県水産技術総合センター 大会議室  
(WEB会議併用)
3. 出席者数 32名

会長	宮城県水産林政部	石田幸司	現地
副会長	宮城県漁業協同組合	渡辺裕季	現地
構成員	神戸大学 産官学連携本部 社会実装デザイン部門	信時正人	WEB
構成員	(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所・水産資源研究センター	堀 正和	WEB
構成員	(国研)水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門	村岡大祐	WEB
構成員	宮城県漁業協同組合 石巻地区支所	小野寺賢	現地
構成員	宮城県漁業協同組合 網地島支所	阿部敏和	現地
構成員	一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	長谷川琢也	WEB
構成員	さかなデザイン	安達日向子	現地
構成員	石巻市産業部	河野大輔	現地

同席者(現地) 土方規生 熊谷将士 香川幹 相澤英昭 村上真夏 上遠野拓也 藤岡博哉  
同席者(WEB) 小野美穂 木村麻理 大野澤真人 前川文人 橋爪有子 伊藤詩音  
堀籠洋一 伊藤貴範 武田慶士  
事務局 佐藤崇 小野寺毅 小野寺恵一 渡邊一仁 鈴木隆史 田中陸

## 4. 審議事項 議案

- 第1号議案 宮城県ブルーカーボン協議会規約(案)について
- 第2号議案 役員の選任について
- 第3号議案 令和3年度事業計画(案)について

## 5. 議事の経過及び結果

定刻の13時00分に開会、宮城県水産林政部石田副部長からの挨拶があった。事務局から本日の出席者を報告した後、資料1に基づき事務局から宮城県ブルーカーボン協議会の設立目的を

説明した。特に説明内容への質疑はなく、議案へと進んだ。議長選任までの進行は石田構成員が仮議長として務めた。各議案の審議状況は次のとおりであった。

○ 第一号議案 宮城県ブルーカーボン協議会規約（案）について

- ・資料に基づき事務局から説明。
- ・質疑なし。
- ・仮議長が採決を諮り、全員一致で承認された。

○ 第二号議案 役員の選任について

- ・資料に基づき事務局から説明。
- ・質疑なし。
- ・河野構成員からの声により仮議長が採決を諮り、全員一致で承認された。会長を石田構成員、副会長を渡辺構成員が務めることに決定した。
- ・規約に基づき、石田会長を議長に選任した。

○ 第三号議案 令和3年度事業計画（案）について

- ・資料に基づき事務局から説明。
- ・質疑

石田会長 現在の進捗状況を共有したい。

事務局 では、石巻地区支所の小野寺構成員と網地島支所の阿部構成員から報告願う。

小野寺構成員 10月15日に採苗したホソメコンブ、11月12日に際苗したホソメコンブ、アラメの生育中。

阿部構成員 11月11日に採苗したアラメの生育をしている。順調に生育しているが慣れないことなので慎重に行っている。

阿部構成員 ブルーカーボン事業における、県内関係者の部局を教えて欲しい。

事務局 北部では気仙沼地方振興事務所水産漁港部と気仙沼水産試験場。中部では東部地方振興事務所東部水産漁港部と水産技術総合センター。南部では塩竈市の仙台地方振興事務所水産漁港部。県全体の統括として、県庁水産業基盤整備課がある。他にも水産業振興課や環境政策課も関係部局となっている。

- ・質疑の後、議長が採決を諮り、全員一致で承認された。

以上により、本日の議案はすべて承認され、14時00分に閉会した。

令和4年1月20日

宮城県ブルーカーボン協議会

議

長

石田幸司



